

## 目白山岳会 登山のヒント集 (2019年1月)

### あなたの山はもっと楽しくなる

●古都保存法の規制のおかげで、景観や環境が守られてきた奈良公園。この公園内の2ヶ所に、豪華ホテルの建設計画が持ち上がっています。

当然ながら、自然保護団体や近隣住民は猛反対。全国から4万人の署名を集めました。反対派リーダーのひとり、市内に住むモンベル会長の辰野勇さん。歴史的価値ある場所を、一企業の営利目的のために提供することを許さない姿勢を貫いています。【松田さんから情報をいただきました】

●2020年東京五輪の聖火リレー。全国の都道府県を走りますが、すべての市町村をまわるわけではありません。人口700人の山梨県小菅村はルートから外れる可能性を念頭に、村民による独自リレーを準備しています。本物に近いトーチを用意、大菩薩峠の頂上で採火し、子どもからお年寄りまで全村民がそれぞれに合った距離を走り下りる計画です。

●最近の登山用ズボンはストレッチ性が高まり、動きやすくなっています。ストレッチ性を機能させるのは「ポリウレタン」という繊維。布地に対して10%くらいの割合で入っているものが多く見られます。

しかし、いいことばかりではありません。通常、衣類用ポリウレタンは3年～5年で劣化がはじまります。布地が伸びたままになったり、ボツボツと小さな毛玉状の粒が出たり、機能が衰えてきます。

劣化は「製造時」から始まっています。「購入時」ではありません。ですから、ズボンは回転のよい店で買い、どんどん着用することが大切になってきます。

●ヘッドランプもさまざまです。「近くを見る時は控えめな光、遠くを見る時は強力なビーム光」など、状況に応じて発光を変えられる最新タイプ。通常の光の他、小屋の中でもまぶしくない赤色光を搭載したタイプ。非常時以外は夜間行動をしない人向けの小型軽量タイプ、別売りケースと合わせるとランタンになるタイプ。進化を続けています。

●登山で大切な筋肉「大腿四頭筋」(太もも前面の大きな筋肉)。公共トイレの個室では「和式」を選ぶのもトレーニングになります。

## 目白山岳会 登山のヒント集 (2019年2月)

### あなたの山はもっと楽しくなる

●靴が泥だらけになった時、濡れた状態のまま洗うのはやめましょう。かえって泥が靴の布地や皮革にめりこんで、取れなくなってしまう。

まずは、時間をかけて放置して乾燥。その後、乾いた泥をブラッシングして落とします。表革製の靴などは、タオルでふけば良いように思えますが、つるつるに見える表面にも目に見えない凸凹があります。まずはブラシでめりこんだ土埃を掻きとることが大切です。

●兵庫労山は1/31、六甲山頂付近に建てた阪神・東日本大震災犠牲者の鎮魂碑がなくなったと発表しました。

碑は東北3県と兵庫の労山などが2016年3月に建立。一辺9センチ、高さ1・3メートルの木製四角柱で「復興祈願」などと白字で記したものの。過去にもストック類で傷つけられたり、真っ黒に塗られたりしたことがあり、今回が3度目の被害となりました。誰が何のためにするのか・・・あってはならない行為です。

●寒い時期、山頂でつくるラーメン、うどんはおいしいものですが、残ったつゆを、その辺に捨ててはいけません。見えないゴミも山の汚染につながります。

「つゆを少なめにつくって残さない」「密封容器に入れて持ち帰る」などの配慮が必要です。

●立山黒部アルペンルートのトロリーバスは昨年で廃止。今年度からは、電気代やメンテナンスを考慮した新型電気バスが導入されます。

●2014年の噴火で甚大な被害が出た御嶽山ですが、去年9月、長野県木曾町が避難シェルターの設置など、山頂付近での安全対策を講じたうえで、山頂につながる登山道を開放しました。

この流れを受け、長野県側のもうひとつの自治体である王滝村のほうも、新たな避難施設を建設した上で、2019年9月を目標に、立ち入り規制を解除したいとしています。

両自治体とも、登山者に「ヘルメットの着用を推奨」「頂上滞在時間を短くする」など注意喚起するそうです。

●そろそろゴールデンウィークの予定を考えてみましょう。今年は4/27～5/6まで10連休の人もいますから、遠出や長期登山にはまたとないチャンスです。

交通機関や宿泊地の混雑も予想されます。可能な人は、ゴールデンウィークの1週間前か1週間後に計画すると、静かな山が楽しめそうです。

## 目白山岳会 登山のヒント集 (2019年3月) あなたの山はもっと楽しくなる

### ●蔵王の樹氷が大ピンチです！

この数年、枝や葉に冰雪をつけるアオモリトドマツの林に害虫被害が広がっています。山頂付近はほぼ立ち枯れの状態で、麓に向かって枯死が拡大。雪の重みで枝が落ちたり、幹が折れたりすれば、樹氷ができなくなってしまいます。国はこの春からあらたな植林を始めますが、「自然の再生は容易ではない」と関係者は危惧しています。

●汚れが目立たない色はアースカラー(ベージュ、カーキ、茶系)ですが、衣服全体をアースカラーでまとめると、なんだか暗い雰囲気になってしまいます。山では、ふだん着ることの少ない明るいレッドやグリーンの服が素敵に見えます。ビビッドカラーに抵抗がある人も、思い切って上半身か下半身、どちらかに目立つ色を取り入れてはどうでしょう。

やってみたいものの難しく感じる時は、集合写真を見て、ステキな人の色合わせをまねてみましょう。

目立つ色は、遭難時の早期発見にも役立ちます。

●失敗した時は、それがささいな失敗でも、原因をきちんと見つけ、対策をしておくことが大切です。「ささいな失敗」とは、例えば「ザック側面のポケットからペットボトルが落ちた」「知らないうちに靴紐がほどけていた」そんなことを指します。1回目はうっかり話で済むかもしれませんが、なおざりにしておく、その失敗が笑いごとではすまされない事態を招くことがあります。

●バドミントンでダブルスを組んだ味方のラケットが目当たって大けがをした人が損害賠償を求めた訴訟。東京高裁は、相手方の全責任を認めて、1300万円の支払いを命じる判決を言い渡しました。スポーツ中の事故を巡ってチームメートに全ての責任があるとした司法判断は異例ですが、登山でも似たような事例が発生するおそれは「ない」とは言えません。

●JRは春のダイヤ改正で、本数に変更はないものの「あずさ」「かいじ」のあり方を大きく変えました。私たちに影響が大きい部分は3点 ①塩山、山梨市、石和温泉の駅は全ての「あずさ」が通過、停車するのは「かいじ」のみ ②下諏訪、富士見の両駅に停車する「あずさ」の数が激減、停車するのは朝・夕夜間の2往復のみ ③三鷹駅は「あずさ」「かいじ」すべてが通過  
イメージとしては「不便になった」と感じる人が多いでしょう。

## 目白山岳会 登山のヒント集 (2019年4月) あなたの山はもっと楽しくなる

●「人生、あと何回山に行けるのか」考えたことはありますか？

現在65歳の方が75歳まで、1ヶ月に1回登ると仮定し、さらに雨が降ったり、都合が悪かったりで、山行率70%とした場合。10年×12ヶ月×0.7=84回という数字が出てきます。(最近の健康寿命は男性72歳、女性74歳)

さて、この「84回」という数ですが・・・あなたにとって多いように思えますか？それとも少なく感じますか？ どうでしょう。

●2018年、無謀登山を減らす目的で施行された、埼玉県防災ヘリの有料山岳救助。結果的に6人(6件)に計35万円を請求する結果となりました。(最高額は8万円。飛行5分間につき燃料費実費5000円負担で計算する)救助された人はいずれも装備を整えており、軽装者はゼロ。有料での救助を拒否した人もいませんでした。

2017年のヘリ出動数は9件なので、数字上は3件減ですが、天候や遭難場所によってもヘリ救助活動にはばらつきが生じるため、「有料化」の効果のほどは、もう少し様子を見る必要がありそうです。

●忘れ物を避けるには、「装備リスト」に照らし合わせながらのパッキングが確実です。

「登山装備リスト」は、山岳雑誌の付録やネットにも出ていますが、自分用のオリジナルをつくるとより便利です。「足がつった時の薬」「シニアグラス」「バンドエイド」「酔い止め」「虫よけスプレー」「日焼け止め」「リップクリーム」「筆記用具」「携帯予備電池」など、忘れないようにリストに付け加えておきましょう。

●JR東日本は、一部新幹線を除いて、お弁当や軽食の車内販売を終了しました。東北や上信越の山に行く時は、乗車前のお弁当購入が必須となります。なおJR東海の東海道新幹線は販売継続ですので、どうぞ安心を。

●本格的に登山靴の手入れをする時は、靴ひもを抜きますが、最近の靴は注意が必要です。構造上、いったんひもを抜いたら最期？ 入れる時になかなか入らず、ひと苦労する靴も見受けられるようになりました。フックに紐をかける昔ながらの革靴は大丈夫ですが、丸穴に紐を入れ込むタイプの靴は要注意です。

## 目白山岳会 登山のヒント集 (2019年5月) あなたの山はもっと楽しくなる

●靴を新調した時、靴クリームも一緒に購入する場合があります。そのクリームですが、下写真のような容器入りの場合、必ず裏返して保管しましょう。フタを上にするると、クリーム表面とフタの間に空気の層ができ、クリームが乾燥したり、ひび割れたり、劣化が早まります。



フタとクリーム表面が密着 劣化を防ぐ      フタとクリーム表面の間に空気の層が

●これまでは「無償」が多かった遭難救助ですが、今後はボランティアなど民間捜索に関しては「有償」が主流になりそうです。一例を挙げると、簡単にバックカントリーエリアに入れるため、事故が多発している八甲田では、2018年より「八甲田ルール」を作りました。「救助要員1人1日30000円、ロープウェイ時間外運行1回50000円、通信・食事・車両など後方支援は実費」など詳細が明確化されています。山岳保険がますます重要視される時代に入ったといえましょう。【島崎さんからの情報です】

●2018年9月から始まった「奥多摩駅」の改修が終了しました。多摩産の木材を使用した新駅舎は、従来の山小屋風の外観を維持しつつ、男女別更衣室や靴洗い場の設置など、登山者に便宜を図っています。記念ワッペンやお菓子、地元酒の販売もはじまりました。【整紀さんからの情報です】

●持っているザックの数を950人に聞きました。上位6位を挙げると

1位=3つ 153人(16.1%)	2位=2つ 112人(11.8%)
2位=4つ 112人(11.8%)	4位=5つ 70人(7.4%)
5位=6つ 37人(3.9%)	6位=9つ以上 28人(3.7%)

【ヤマケイ調査より】

## 目白山岳会 登山のヒント集 (2019年6月)

### あなたの山はもっと楽しくなる

●今年のGW(4/27～5/6)の山岳遭難状況が警察庁から発表されました。遭難者数は207人(前年比20人増)。うち60歳以上が107人で半数以上を占めました。捜索や救助活動に投入された警察人員は、延べ925人。ヘリの出動件数は61回でした。

●遭難はどんな山のどんな場所で起きるのでしょうか？

- ①霧や雪、吹雪など悪天候が多い。
- ②雪山や不安定な岩場の事故が多い。
- ③標高の高い山での遭難が多い。

もっともらしい感じがしますが、①～③はどれも間違いです。

以下は、関西大学の青山名誉教授がシンポジウムで発表した内容の抜粋です。

マスコミは、雪崩や悪天候による大規模遭難や海外での登山家の事故など、メディア側の山岳遭難のイメージに合致するものを大きく取り上げます。一方で、なだらかな里山で起きた事故は、新聞などにはほとんど載りません。結果①～③のイメージが人々の心に刷り込まれてしまい、「自分は低山ハイカーだから、事故なんて無縁だ」と思いこんでしまいます。

では、実際はどうかと、山岳団体の事故データ約3400人分、230万項目を分析した結果が下記です。

- ④事故時の天候は75%が晴れか曇り。霧、雪、吹雪は15%。
- ⑤場所は、土や草、しっかりした岩など一般的な斜面の登山道がほとんど。
- ⑥標高は2000m未満が81%。傾斜は30度未満が大部分
- ⑦事故は全行程の4分の3行程で多発(天候や場所よりも、疲労や気のゆるみの影響が大きい)

ですから④～⑦を正しく認識し、「事故はふつうの山で起きている」というイメージを定着させることが、遭難防止の第一歩といえましょう。【島崎さんからの情報です】

●スマートフォンが主体となった携帯電話。必要ない時は「電源を切る」「飛行機モードにする」などバッテリーの消耗を防ぐと同時に、予備バッテリーの持参を習慣づけましょう。バッテリー残量が0%になってしまったら、アドレス帳も一切見られません。必ず紙面の連絡名簿も用意しましょう。

●山が好きな人と嫌いな人の違いは、下山後の印象の違いによります。同じ山に行っても「新緑の青葉がきれいだった」「すがすがしい空気を満喫した」と思える人は山が好きになり、「とんでもない長い登りだった」「虫がたくさんいて気持ちわるかった」と思い出す人は嫌いになります。

## 目白山岳会 登山のヒント集 (2019年7月)

### あなたの山はもっと楽しくなる

●松本共立病院(松本市)では、山登りに特化した「登山者検診」をはじめました。

①遭難・事故の背景には「疲労」がある

→CPX(心肺運動負荷試験)や心エコー検査を行い、その人がどれくらいの運動に耐えられるかの限界を調べる

②遭難死の20%は「突然死」が原因

→循環器医による詳細な心臓病のチェックを行い、既往症のない「隠れ心臓病」を発見する

①②に重点を置いての検査です。基本料金は26,400円(税抜)になります。

●「雷しゃがみ」。開けた平地で、避難場所が無いときの雷対処法です。

①頭を下にかがめる(できるだけ姿勢を低く丸くしゃがむ)

②両手で耳をふさぐ

③足の両かかと同士を合わせる

④つま先で立つ(かかとを地面から浮かせる)

この中で特に重要なのが③と④です。

両足のかかとを合わせる(付ける)理由は、万が一、雷の電気が足から進入しても上半身まで流れないように、片足から反対側の片足へUターンさせて流し返すため。また、つま先で立つ理由は、地面との接点を可能な限り小さくして、電気の侵入を最少にするためです。

かなり苦しい体勢ですが、いざという時のために練習してみましょう。

●山へむかう長距離電車が登山者でぎっしり超満員。GWやお盆時期に見られる光景です。あいにく座れなかった時は、座席で地図を広げる人を観察しましょう。たとえば「南小谷行あずさ」の場合、「奥秩父」「北岳」の地図を見ている人のそばにいれば、比較的早く座れるでしょう。反対に「白馬」地図の人の前に立ったら最後、終点まで立ちっぱなしかもしれません。

●2018年度の遭難件数は2661件(前年比78件増)、過去最悪となりました。

各人の自覚が大切なのはもちろんですが、最近「ココヘリ」という新しい遭難者発見システムが注目されています。

登山者が持つ発信機の電波を、強力な受信機を搭載した探索ヘリがキャッチし、素早い捜索につなげる、というものです。労山も「ココヘリ」加入を会員に促していて、入会金の一部補助や捜索交付金の1000倍給付など、積極的な姿勢を示しています。

【島崎さんからの情報です】

## 目白山岳会 登山のヒント集 (2019年8月) あなたの山はもっと楽しくなる

●暑い夏山ハイクに凍らせた水筒を持っていき、休憩時間に飲もうとしたところ、思いのほか融けていなかった・・・こんな経験をした人は多いと思います。

パッキング時に、「横向き」に水筒を寝かせて入れましょう。歩行中左右にシェイクされ、「縦向き」より早く解凍します。

●茅野市は、ふるさと納税制度を利用し、ハヶ岳の登山道整備に使い道を絞った寄付を、6月21日から9月28日まで募集しています。目標金額は150万円。寄付額に応じて、山小屋や公共温泉利用券、飲食店の食事券などが配布されます。

●登山口で登る準備、朝食後に山小屋を出発する準備、急な降雨時に雨具を整える準備・・・早い人とそうでない人がいます。用意が遅い人は、どうやったらテキパキできるか、家でシミュレーションをしてみましよう。コツは、自分なりの準備ルールをつくり、そのとおりに行動することです。同じことを何度も繰り返したり、必要なことを忘れて再度やり直したりすると、どんどん遅くなってしまいます。

●ライチョウが50年前に絶滅したとされる中央アルプスですが、今夏になって北アルプスから飛来したとみられる雌1羽が見つかり、人工的に有精卵を抱卵させ、7月1日には5羽のヒナが誕生しました。周囲の期待は大きかったのですが、残念なことに11日にはヒナの姿が見当たらなくなり、調査の結果「すべて死んでしまった」との発表がありました。いったん無くした自然の復活はむずかしいものです。

【島崎さんからの情報です】

●最近のヘッドランプは、「平常光」「小屋内で使う赤色光」「強力なハイビーム光」「点滅光」などさまざまな光線があり、複数の機能を合わせ持つものも多くなってきました。機能の中でどれかひとつがダメになった場合、故障を疑ってしまいがちですが、電池を新しくすると、直る場合があります。



## 目白山岳会 登山のヒント集 (2019年9月) あなたの山はもっと楽しくなる

●荷揚げのヘリが下りてきたり、救助ヘリが飛んできた時の注意点です。決して「どれどれ」などと興味本位に近づいてはいけません。プロペラの下は強烈な下降気流が発生するため、すごい風をまともに受けてしまいます。

数年前には不幸な事故も起きました。急傾斜の枯れ沢の中腹で、足の痛みを訴えた男性を吊り上げて救助しようとしたところ、強風の影響で木の枝や石が沢に沿って落下。腹に約30センチの石が当たり、男性は死亡、救助していた3人もけがをさせていただきました。

●足の形や大きさは、一定ではありません。暑い時期は、足がむくむので、靴下をやや薄めにする人もいます。初日は厚地のもの、翌日は薄めにする用心深いやり方は、足裏感覚を大切にするクライマーに多いようです。

加齢による変化で足が痩せてくる人もいます。靴に違和感があったらショップに相談して、場合によっては中敷きを交換しましょう。安価なものも100円ショップにもあります。

●登山用品のリサイクルが進んでいます。カモシカスポーツ松本店では「かもフェスフリーマーケット」を毎年開き、出展者は無料で参加することができます。北海道を中心にツアーを展開するノマドでは、リサイクル事業部を立ち上げ、使わなくなった山道具やアウトドア用品の買い取りを行っています。環境保護が強く要求される世の中で、こうした取り組みは今後ますます盛んになると思われます。

●奥多摩でクマの目撃件数が増えています。例年では年間20~30件が通例ですが、今年は4月から8月の間だけですでに43件。この5年間で最多となっています。8月には、川苔山でワサビの栽培をしていた男性がクマに襲われ負傷しました。

クマが多い理由として、今年は梅雨の時期が長く、餌となる木の実が少なかったことを関係者は挙げています。秋にかけても冬眠に備えた食料確保のため、クマの人里への出現は続くとみられています。近隣住民には「栗や柿の実をきちんと収穫すること」「生ごみを外に放置しない」、登山者には「調理後、余った煮汁を捨てない」「動物や鳥用に食料を置いていかない」など呼びかけています。

## 目白山岳会 登山のヒント集 (2019年10月) あなたの山はもっと楽しくなる

●ユネスコが「甲武信」を、自然と人間の共生を図るエコパークに認定しました。奥秩父の山々と山岳信仰、山を源とする荒川や多摩川の流れ、希少種の動植物などの融合が評価されたようです。

【島崎さんからの情報です】

●長野県は「白馬三山の美しい景観を阻害している」電線の地中化を決定しました。地中化の範囲は、白馬駅からまっすぐ伸びる県道 350mとJR大糸線と平行する国道 480mが対象で、総事業費は 14 億円、2024年度の工事完了を目指します。

●長野県警が発表した今年の夏山遭難者数(7~8月)は、過去最高となった昨年を 15 人下回り、106 人でした。このうち死者・行方不明者は 9 人。減少理由は夏山期間中の天候不良が大きいとみられています。

●今年度の富士山夏山シーズン(7/1~9/10)、山梨県側の入山料(保全金・1人 1000円)の徴収額は昨年比 14%増の 1 億 36 万円になりました。電子マネーによる支払いは 5316 人、こちらは前年の 10 倍です。

●季節の変わり目には、登山靴を念入りに手入れしてみましょう。靴紐を抜き、クリームをぬったり、ブラッシングすることで見違えるようになります。

そして靴裏剥離の前兆や靴紐の劣化を発見するのも、こんな時なのです。

●温暖化の影響で、秋のハチの活発化が長引いています。近づいてきたら手で振り払ったりせず、体勢を低くしてそおっと遠ざかりましょう。台風の数日後に山へ行ったら、登山道に折れた枝が落ち、その先端に蜂の巣がそのままくっついていたこともありました。

●登山前夜、つくったお弁当を冷蔵庫に入れる時の方法です。

水分をふくませたフキンで包み、そのまわりを厚地タオルでぐるぐる巻きにして、最後にポリ袋をしっかりと被せましょう。翌日にごはんなどが冷たく乾燥し、ポロポロになるのを防ぎます。コンビニのおにぎりやサンドイッチの冷蔵庫は家庭用のものとは違い、その辺がうまく管理されているのです。

## 目白山岳会 登山のヒント集 (2019年11月) あなたの山はもっと楽しくなる

●「トライ&エラー」があなたを成長させます。

例えば「道迷い」。しないに越したことはありませんが、何回か経験すると、正規の道の探し方やピンチ時の地形の読み方が身についてきます。優秀なリーダーの後ろばかり歩くと、「間違い」はないかもしれませんがスキルはアップしません。「遭難騒ぎ」にならない程度の苦勞はしたほうが良いのです。

●10月から消費税が上がり、軽減税率制度が実施されましたが、登山用品店もその影響を受けています。衣服やザックは消費税10%ですが、乾燥商材、スープの素、フリーズドライ食品は8%に据え置きとなりました。店員さんたちも「こんなややこしい時代が来るとは思ってもみなかった」と、てんてこまいです。

●今シーズン、テント泥棒が北アルプスに出没しました。9月6日、剣沢のキャンプ場を出発。剣岳登山を終えて戻ったところ、1人用テントや寝袋など一切がなくなっていた事件が発生しました。翌日には雷鳥沢でも同様の事態が。盗まれたテントは同じメーカーのもので、同一犯の仕業と警察は見ています。場合によっては命にかかわる大事件で、厳しい対処が必要です。

●日本で多い山名。1位：城山(298山)、2位：丸山(187山)、3位：愛宕山(121山)、4位：烏帽子山(岳)(92山)、5位：権現山(岳)：89山。山と人々の生活が、昔から深くかかわっていたことを示す結果のように思えます。

●今年の秋は台風や大雨が続き、日本列島は未曾有の被害に覆われています。交通機関や道路の情報は関係先のHPで手に入れますが、登山道の状況まではなかなか把握できません。「ヤマケイオンライン」でも一部発表はありますが、いちばん良いのは自分の目で確かめること。危険を感じたら引き返してあげれば良いのです。ただし、被害を受けた人への配慮をお忘れなく。

●スノーオークが、朝日酒造と酒造りプロジェクトを始動し、「アウトドアで日本酒を楽しむ」をコンセプトに掲げた「久保田 雪峰(せっぽう)」を共同開発しました。価格は500mlで税抜3100円～です。

## 目白山岳会 登山のヒント集 (2019年12月) あなたの山はもっと楽しくなる

●秋の台風や長雨で多くの登山道が被害を受け、いまだ完全復元にはほど遠い状態です。復旧の早遅を見分けるひとつの方法は、山頂標識や道標の状態です。もともと標識がきちんとしている山域は、比較的早く整備の手が入るようです。反対に標識が朽ち落ちていたり、文字が消えかかっているような場所は、復旧に時間がかかっています。

もちろん損壊場所や崩壊規模によっても復旧の難易は変わってくるので、個々の登山道の状況は必ず関係役場等に確かめるようにしましょう。

●温暖化がすすみ、ブタクサやヨモギ、カモガヤが影響する「秋の花粉症」が12月までずれ込んでいます。季節柄「風邪」と間違えやすいのですが、野山や郊外散歩に行くと症状が強くなるのは春同様です。マスクや眼鏡を着用したり、薬などの服用も考えましょう。

●気を付けなくてはならない人シリーズ

その①「一緒にいきましょう」という人

駅で出発の用意をしていると、知らない人から「一緒に登りませんか？」と声がけされたことはありませんか？ 実力が似た人ならば、楽しい一日になるかもしれませんが、中には、独り歩きに不安があり、解消のため他人にすがろうという人もいます。こんな人に同行すると、何かと頼られ、思わぬ負担になってしまいます。反対に「私はこの山に詳しいんです」とすり寄ってきて、頼んでもいない案内を行い、最後に「ガイド料」を要求する事件も過去にはありました。たとえ山であっても、知らない人には注意が必要かもしれません。

●白馬村に2020年春、「野遊び」をキーワードにカフェや店舗などを備えた「体験型施設」が誕生します。設計は、東京五輪・パラリンピックの新国立競技場を手がけた建築家の隈研吾氏。「白馬の新たなランドマークに」と関係者は期待を寄せています。

●来年は2020年の子年。標高2020mの山は大雪山系・緑岳(松浦岳)、日光連山・於呂俱羅山<おろぐらやま>、草津白根山塊老ノ倉山<おいのくらやま>。また山頂ではありませんが奥鬼怒湿原の一部も2020mです。いっぽうで、子(鼠)のつく山は、奥武蔵・子ノ権現(650m)、岐阜県・大鼠山(1585m)、三重県最南端・子ノ泊山(907m)、福井県・鼠尾山(1298m)などがあります。人間に身近な生き物ですが、どちらかといえば嫌われ者。山名の数も少なくなっています。